

南箕輪村議会議長 様

提出者名 笹沼 美保

議員研修・議員視察結果報告書

<p>研修名または視察テーマ</p>	<p>福祉教育常任委員会研修視察</p>
<p>研修・視察実施場所</p>	<p>能登町社会福祉協議会・日本海倶楽部・春蘭の里</p>
<p>研修・視察の期間</p>	<p>令和 7 年 10 月 20 日～ 10 月 22 日</p>
<p>研修・視察の成果等</p>	<p>&lt;能登町社会福祉協議会&gt;          令和 6 年 1 月 1 日の能登半島地震発生からのようすを聞いた。5 日まで通信がとれず、7 日まで電気が通じず、4 月まで水道が使えない所もあったそうで、水がないことで食事・トイレ・風呂に困ったという。写真で当時の被害状況を見ることができたが、こんなにもひどい状況かと改めてその被害の大きさに驚いた。福祉避難所は被災しすべて使えず、金沢に避難して後に体育館に福祉避難所を作ったそうで、障がいのある子どもは、学校などの教室を使い避難生活を送ったという。家屋などの解体は、公費・自費合わせても 9 月末時点で未だ 87% しか進んでおらず、ここに向かう途中でも崩れた家屋をいくつも目にし、道路も修繕途中でうねっている状況で、復興への道のりは平坦ではないことがよくわかった。災害ボランティアセンター立ち上げまでの経過も聞くことができ、住民を巻き込んだプレオープン、技術ボランティアとの連携、また、課題も知ることができた。</p> <p>&lt;日本海倶楽部（社会福祉法人 佛子園）&gt;          障がい者の就労支援を行っている施設で、「ごちゃまぜ」（地域の人が集まる場で障がいある人が働く）を実践している。障がいある人にとって</p>

は、居場所があってもそこに参加できるかが大事であり、日常的に顔が見える関係を築くことが必要で、それを震災前から大切にしてきたとのこと。障がいある人にも理念をしっかりと伝えて、リーダーを育てることも大切とのこと、支援する側・される側ではなく、共に支えあう意識が必要なのだろうと感じた。

<春蘭の里>

「行政に頼らない地域づくり」「行政が応援したくなる地域づくり」を目指し、農家民宿を中心にグリーンツーリズムとゼロカーボンに向けた取り組みを行っている。訪れたのは廃校をリニューアルした宿泊施設「こぶし」で、海外からも泊まりにくるそう。太陽光発電や小水力発電により、エネルギーの地産地消にも取り組んでいた。60年前から水道を独自に引いており、災害時には近隣からもここを頼って来る人もいたという。確かに、災害時に行政を頼ってばかりでは、事がなかなか進まないことは多々あり、地域住民が自分たちに何ができるか、どう備えるかを常に考えておくことは大切なのだと痛感した。

※研修・視察終了後、議長または委員長が定めた期日までに提出すること。